

会 議 要 録

会議名称 平成26年度 第1回 市史編さん委員会
開催日 平成27年3月25日(水) 午後1時30分～2時20分
会場 佐倉市役所1号館3階会議室
出席者 ・市史編さん委員
浦田啓充委員長 近森正委員 堀越正行委員 五十嵐公一委員 白土貞夫委員
中澤恵子委員 内田儀久委員 岩淵令治委員
(事務局) 橋口庄二総務課長 土佐博文副主幹 江森幹浩主査
記録作成 江森幹浩

会 議 内 容

会 議 今後の『佐倉市史』編さん刊行物について
〔事務局〕
事務局より『佐倉市史料叢書』の刊行につき提案
*配布資料 『佐倉市史料叢書』の刊行について【事務局提案】に基づき説明

〔白土委員〕
刊行対象となる資料として例が挙げられているものは、すでに所在が確認されているものか。

〔事務局〕
把握しているもの、収集史料をあげてある。

〔中澤委員〕
平行して新たに発見される史料も、行く行くは対象になる可能性があると考えてよいか。また、編さん室の活動としては、叢書と平行して、調査、整理を継続していくと考えてよいか。

〔事務局〕
今後の調査で出てくるもののあると考えている。編さん室の活動は継続する。

〔岩淵委員〕
今回の候補に、絵図・地図が挙がっていないが、できれば別編でカラーで出して頂きたい。『古今佐倉真佐子』などの地誌・地図・絵図をできれば一冊で刊行していただきたい。最近の自治体史資料編は、住民にとって身近である地誌・絵図を最初に持ってくることが多い。自分の住んでいる場所が昔はどういう場所でどんな名所があるか、といった事は、住民にとって身近であり、つかみとしては適切なのでご検討頂きたい。

〔白土委員〕
巻4を作った際に、岩淵薬品の文書を見たいと思った。編さん室の方でプッシュして頂いて、拝見できるものであれば拝見したい。岩淵家がどれだけ古いか存じ上げ

ないが、佐倉市長もおやりになっているので、近現代のもの、行政資料は残っているように思う。

[事務局]

岩淵家については現状ではプッシュはしていない。

[内田委員]

話した事がないのでわからない。連隊関係の資料は少しあるかと思う。

[白土委員]

薬品はいつごろからやられているのか。

[内田委員]

戦後だと思う。連隊で薬関連の下士官をされた関係ではないかと思う。

[近森委員]

『佐倉市史』考古編で資料編を出したが、今回は金石分の類をお考えか。

[事務局]

文献資料を考えている。

[近森委員]

紙のもの以外に、板碑、宝篋印塔など石のものも多くあって、金石文は考古編では十分には押さえ切れていないと思う。

[事務局]

そのあたりも含める必要があると思う。

[岩淵委員]

現代の資料は、どのあたりまでを考えているか。

[事務局]

巻4では、昭和50年代までを期限とした。その後も、場合によっては可能性がある。

[岩淵委員]

佐倉市は、美術館はあるが博物館はないので、歴史資料の保存意識と理解を高めるという点では、資料編を出すことによって、さらに資料が出てくる可能性もあるので、ぜひ進めていただきたい。また、翻刻作業、編集作業、資料の散逸を防ぐための調査、また寄贈受け入れなど、膨大な作業になると考えられるので、専門知識を持つ職員を確保して頂きたいと思います。

[中澤委員]

近現代の資料は、行政資料を含めて保存期間につながっていくと思うが、極めて現在に近い時代も対象にしないと散逸してしまう。行政資料もだが、一般家庭ではな

お散逸、廃棄処分になってしまう。昨年の会議で、資料編をお願いして、こうして始まるのは現実的でいい提案だと思う。予算がついてから資料編を出す、というのは現実的ではないので、日ごろの活動を文字化していくことと、平行して資料を発掘し、それが資料編になっていくという発想は、極めて正統的な提案であると思う。ぜひ実現して頂きたい。

[近森委員]

市役所では行政文書の破棄については、取捨仕分けはどのように行われているのか。制度化はされているのか。

[事務局]

行政文書には保存年限があり、過ぎたものは、総務課文書法規班から連絡があり、毎年の廃棄時期に市史編さん担当の職員が仕分けをしている。制度化はされておらず、漠然とした基準での選別が現状。人員の問題もあって大掛かりなことはできない状況にある。

[近森委員]

資料編を出すのであれば、そのあたりも制度化していただきたい。権威、権限を持って仕分けをする制度が整っていた方がよいのではないか。

[白土委員]

近年は規制改革があり、認可制が届出制に代わって報告だけで終わりのものも増えており、最近のことでも現実的にはよくわからなくなっている。収録はできる限り新しい時代までやって頂いた方がよいと思う。

[岩淵委員]

かなりの作業量になるので、何年計画かということにもよるが、常勤の方の雇用ということも考えて頂きたい。
刊行の後に叢書講読会があげられており、そういった活用を図ることは重要である。講読会はどのような形で考えているか。

[事務局]

資料の大切さを市民に普及するためには、講演会などが必要と考えている。回数は1、2回ではなく複数回、講読会や原本に触れる機会を設ける。古文書講座の開講の要望もあり対応していきたい。

[近森委員]

資料を広く市民に普及するという趣旨では、考古編の刊行記念講演会の際にも、考古資料を一時的に展示して参加者に見て頂く機会を作った。市民の方々が普段、郷土の資料を見る機会がない。資料を保管し閲覧できるようなスペースを作れないか。美術館の空きスペースを利用して、入れ替えをしながら佐倉市の保管する考古資料から現代までの資料を市民に見ていただくようなスペースをお考え頂けると委員長より伺っているが、進展はあったか。

〔委員長〕

ハードの話であり、すぐに具体化できる話しではないが、収蔵場所を確保する作業は始めており、小学校の間借りなど劣悪な状況に保管されているものは徐々に改善していけると考えている。美術館への常設は難しいが、一定期間の展示については、美術館等と協議していく。

〔近森委員〕

市史がすべて出版され、それぞれで扱った歴史資料の評価、価値は定まったと思う。それらを実際に市民に見て頂けるような施設を、できれば常設の形で作って頂きたい。冊子の刊行だけでなく、具体的に資料を展示するという事も併せて、お考え頂きたいと思う。

〔委員長〕

美術館としての展示計画もあり、いきなり常設は難しいが、ある一定期間、展示する方法はあると思う。

〔内田委員〕

講座は公民館や図書館との共催を考えるとよいと思う。

公民館は人の募集と会場の提供、編さん室は資料の準備、といったスタンスを考えてはどうか。

〔五十嵐委員〕

学校教育の職員研修に関わっているが、学校現場は忙しく、外の講座、講習会へ出席の機会がない。資料の存在は知っていても、実際はどんなものであるのかわからないのが大方の現状。その資料の価値や内容の概略が巻頭にあるとありがたい。判りやすい解説やグラビアなど、手に取りやすい叢書を希望する。

〔堀越委員〕

市民に史料を知って頂く講読会など、読み砕いて勉強する、佐倉の事を知る、という発想は、資料の活用という点で非常に大切であり、刊行後の利用を意識した上で作って頂きたい。

『佐倉市史』考古編刊行記念の講演会では、会場に考古資料臨時的に展示したが、施設があれば主だったものを展示して頂きたいと考えている。学校も活用できるし、観光客が見ることもできる。新しく博物館を作る必要はないが、利便性のあるところに展示施設を作って頂ければ、市民全体の意識も深まると思うのでご検討いただきたい。

〔委員長〕

皆様のご意見を踏まえた上で、『佐倉市史料叢書』を刊行していくということによろしいか。

〔白土委員〕

実現するには、予算人員があるので、そのあたりもよろしくお願いします。

2) 今後の予定について

〔事務局〕

新年度に史料を選定し、翻刻、解読作業を進め、再来年度には一冊目を刊行したい。編さん担当の予定としては、市所蔵の近世、近代史料の整理をすすめていく。また、市内外の新たな資料の発掘、調査を進め、今後の編さん事業に活用すべく整理を実施していきたい。

〔近森委員〕 期間は、1年ずつと考えてよいか。

〔事務局〕 隔年発行を考えている。

〔近森委員〕 日程を、この委員会に諮るのはいつになるか。

〔白土委員〕 スケジュールや専門の先生方の紹介を含めて、年度末ではなく、予算が決まり次第、早い時期に会議を招集して、委員にも知らせて頂きたい。

〔委員長〕 できるだけ早い時期に、次のステップの話をしたと思う。よろしくお願いします。